



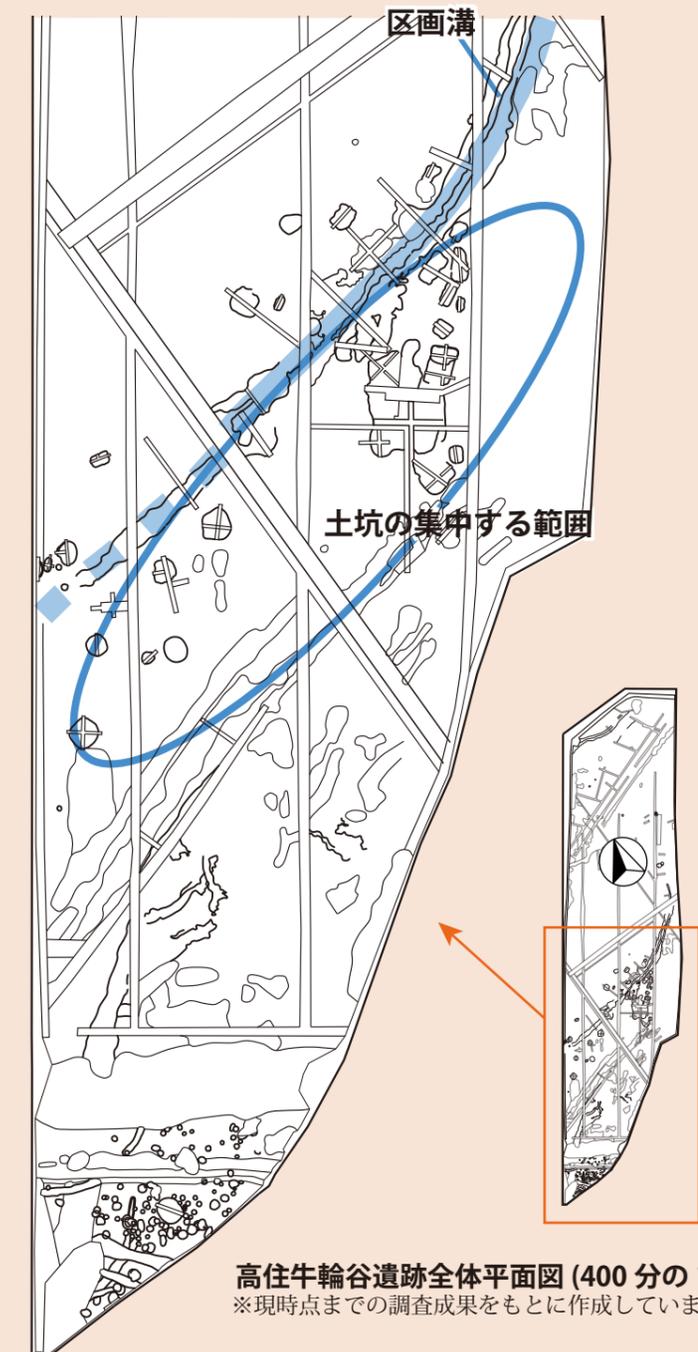
高住牛輪谷遺跡・高住井手添遺跡の発掘調査

高住牛輪谷遺跡と高住井手添遺跡は、ともに湖山池南岸に位置する遺跡です。鳥取西道路の建設事業に先立ち、今年度から本格的な発掘調査が行われ、縄文時代以降、近世に至る多種多様な遺構・遺物が確認されました。

周辺では布勢遺跡や桂見遺跡など、縄文時代以降の遺跡が多くみられます。縄文時代中期頃(約 5000 年前)は現在よりも海面が高く、鳥取平野や湖山池は日本海とつながる内海となっていました。外海に比べ波の穏やかな内海の沿岸は、人々が生活するのに向いた環境だったのでしょう。



縄文海進時の遺跡周辺 (日本海側から北方向を望む)
※国土地理院基盤地図標高(10m)とカシミール3Dを用いて作成したCG画像。高さは3倍に強調



高住牛輪谷遺跡全体平面図 (400 分の 1)
※現時点までの調査成果をもとに作成しています



区画溝

溝を境に遺構の密度が大きく異なっています。



弥生時代後期～古墳時代前期の土坑



長方形の土坑

ほぼ同じ場所にいくつもの土坑が掘られていました。



装飾された壺の破片



土坑からの土器出土の状況はさまざまです。
写真左下の土坑から出土した土器はほぼ完全な形に復元できました。

高住牛輪谷遺跡では、縄文時代から中世にかけての遺構、遺物を確認しています。古いものでは縄文時代後期(約三五〇〇年前)の土器が出土した土坑があることから、三千年以上の長きにわたり、当遺跡が生活の場として利用されていたことがわかってきました。
弥生時代後期から古墳時代前期(約一八〇〇～一六〇〇年前)には溝と多数の土坑がつくられていました。溝は遺跡東側の丘陵に沿って掘られています。土坑はそれよりも丘陵側に集

中しており、溝が集落の区画としてつくられた可能性が考えられます。土坑の中には土器がまとまって出土したものもありました。また遺構の周辺からも多くの土器が出土していますが、ほとんどが細かい破片となったものです。それらの中には、高坏や器台、装飾が施された壺など、まつりにかかわる土器もみられました。
調査区北側では古代以降の畦の跡がみつかりました。畦以外に目立った遺構はなく、この場所が水田として使われたと考えています。

高住牛輪谷遺跡の調査成果

高住井手添遺跡の調査成果

高住井手添遺跡では、縄文時代や弥生時代の人々が残した生活の跡がみつかっています。

遺跡からは、**縄文時代前期～中期（約六〇〇〇～五〇〇〇年前）**の土器や石器がたくさん出土しており、とても長い歴史が眠る重要な遺跡であることが明らかになりました。

また、**縄文時代晩期（約三〇〇〇～二五〇〇年前）**に埋まった川の跡からは、多量の木材や木の実などとともに、美しく編まれたカゴが出土しました。精緻に編まれた優品が多く、当時の手工芸を考える上で貴重な発見です。カゴの材料とみられる棒材や植物のツルが数ヶ所からまとまって出土しており、この遺跡でカゴ作りをしていたと考えられます。

弥生時代中期（約二二〇〇年前）には、たくさんの溝が掘られていました。砂や泥で溝が埋まると、新しい溝を掘るため、複数の溝が重なり合っ てみつかりました。溝の中には、杭や板を組み合わせたかまき、溝の壁面が崩れないように工夫された場所もあります。よく似た遺構は鳥取市青谷町の青谷上寺地遺跡でもみつかったっており、弥生時代の治水や土木技術を知る大きな手がかりを与えてくれます。

この他に、**弥生時代後期（約一八〇〇年前）**に掘られた細長く延びる溝がみつかりました。この溝からは、土器片とともにたくさんモモの種が出土しています。日本神話には、黄泉国から逃げ帰るイザナギが追っ手を追い払う話の中でモモの実が登場します。最近では奈良県の纏向遺跡で大型の建物跡の傍から二千個ものモモの種が出土しています。この溝の周囲で何らかの儀礼が行われていたのかもしれない。



① 縄文時代晩期の川
川をふさぐように横倒しになった木がみつかりました。水量や流れを調節していたのでしょうか。



② 川底から出土した木の实と土器
トチやドングリなど、たくさんの木の实がみつかりました。



③ 美しい編み目を持つカゴ
数種の材料を組み合わせられて編まれています。



④ 川から出土したカゴと棒材
カゴの素材とみられる棒材がまとまって出土しました（右）。紐などで束ねられていたかもしれません。



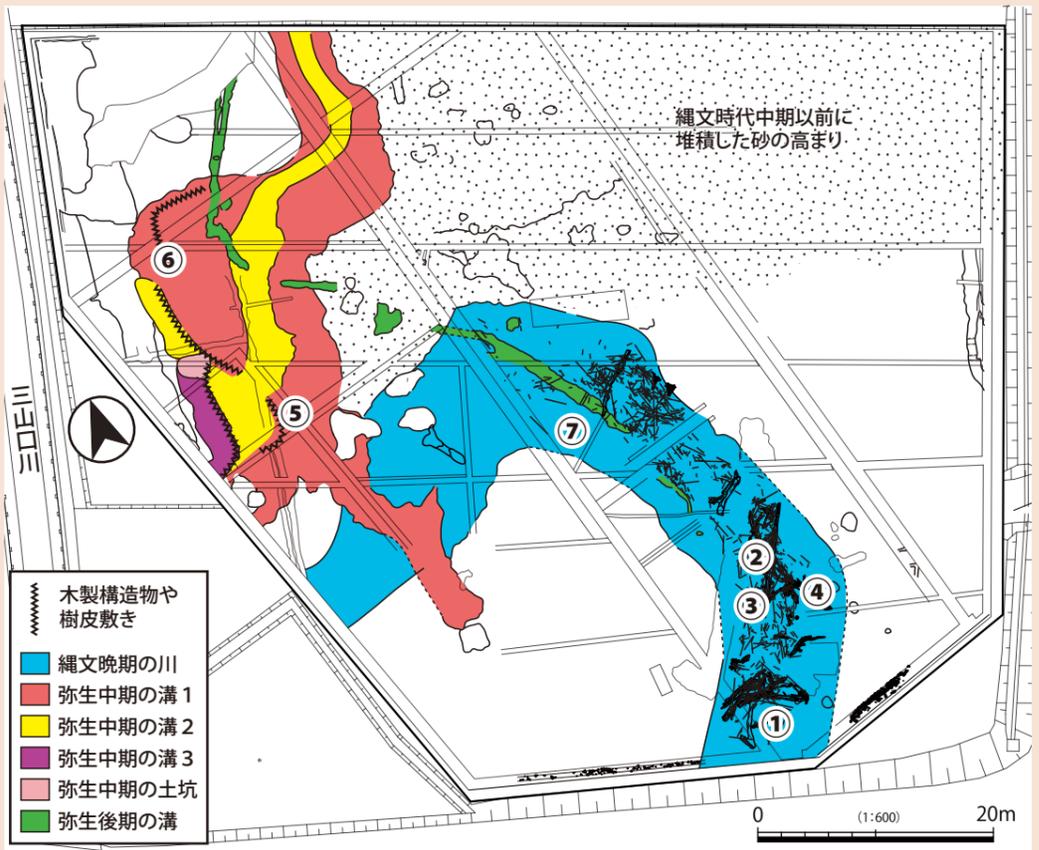
縄文時代晩期の土器



縄文時代前期～中期の石器と土器
右：美しく飾られた縄文土器（中期）
左：扁平な石の両側を打ち欠いて作った錘（おもり）



⑦ 弥生時代後期の溝
モモの種（写真左下）がたくさんみつかりました



高住井手添遺跡全体平面図（600分の1）
※現時点までの調査成果をもとに作成しています

- 木製構造物や樹皮敷き
- 縄文晩期の川
- 弥生中期の溝 1
- 弥生中期の溝 2
- 弥生中期の溝 3
- 弥生中期の土坑
- 弥生後期の溝



⑥ 溝2の壁面に敷かれた樹皮
スギなどの針葉樹とみられる樹皮が敷かれていました。



⑤ 溝2の護岸
強い水流が当たる場所を木製構造物や樹皮で守っています。

弥生時代中期の土器

縄文時代晩期の土器

縄文時代晩期の川

川底から出土した木の实と土器

美しい編み目を持つカゴ

川から出土したカゴと棒材

縄文時代前期～中期の石器と土器

弥生時代後期の溝

溝2の壁面に敷かれた樹皮

縄文時代中期以前に堆積した砂の高まり

SIDE III

0 (1:600) 20m

水の流れ

溝2の護岸